

細島港長期構想検討委員会  
第1回委員・幹事合同委員会 議事概要

○日 時

平成25年1月11日(金) 午後2時30分～午後5時00分

○場 所

日向市役所 第1～3委員会室

○出席委員(22名)

委員長	鬼頭平三	委員	村上啓介
委員	土井裕子	委員	山本裕
委員	三輪純司	委員	清秀幸
委員	田北賀也	委員	赤尾純一
委員	岩田一廣	委員	黒木巧
委員	是澤喜幸	委員	厚東貞治
委員	小林喜三	委員	伊藤美喜子
委員	松原弥栄	委員	鈴木弘之
委員	廣門千秋(代理)	委員	前畠学
委員	城野豊隆(代理)	委員	大田原宣治(代理)
委員	黒木健二	委員	安田修

○欠席委員(1名)

委員 米原隆夫

○オブザーバー(1名)

梅野修一

○出席幹事(18名)

幹事	馬場智	幹事	三島理
幹事	深江秀則(代理)	幹事	中川雅博
幹事	日下雄介	幹事	占部秀彦(代理)
幹事	野間純利(代理)	幹事	川井田哲郎(代理)
幹事	武田義昭	幹事	甲斐典男
幹事	坂元政嗣	幹事	谷口幸雄
幹事	沼口晴彦	幹事	今西宏美
幹事	蓑方公	幹事	矢野好孝
幹事	浜本和樹	幹事	高橋栄一

○オブザーバー(1名)

佐々木規雄(欠席)

## 1 委員長の選出

- ・委員長：鬼頭理事長（日本港湾協会）
- ・委員長代理：村上准教授（宮崎大学）
- ・幹事長：坂元課長（宮崎県港湾課）

## 2 議事概要（主な意見）

### 【全体】

- ・ 将来担うべき役割については、地域の玄関口としてだけではなく、地域がどうなるかを議論する必要があると思うが、現状より少し先程度の内容に感じられて物足りない。
- ・ 高齢者増で、どのように新しい取り組みをしていくのかなどの議論も必要である。また、労働人口が減ってくるとトラックドライバー等も減ってくるので、その時に大量輸送である船舶がどのような位置を占めるのかなど、もう少し長期的な目で捉える必要がある。
- ・ 課題を整理して把握するという意味では、おおよそ資料の内容は当てはまっていると思うが、細島港の名前を変えれば他港にも当てはまるように見えてしまうので、細島港で重点的に取り組むまなければならないものを明確にした方が良い。

### 【物流に関する意見：取扱貨物量について】

- ・ 細島港においてコンテナの輸入量が少ないのは、ここで特化した課題であるので、コンテナ輸入の増加も課題として捉えて欲しい。
- ・ 帰り荷の空の割合が高くなっているということだが、仮に熊本や西九州方面の貨物が入ってくるとすれば、どのぐらいの貨物が確保できるのか
- ・ 細島港を核としたグランドデザインを市長に提出し、コンテナ貨物量についても6万TEUと設定した。今後の改訂に向けてコンテナ取扱量の需要予測を既に行っているのか。
- ・ 細島港は、九州内で北九州、それから博多に次いで、コンテナ貨物量は3位ぐらいだったが、今は6位、7位に落ち込んでいる。もっとどうやったら競争力をつけていけるのか、補助金とかそういうものでは追いつかないところもあるので、基本的なところから見直す必要がある。

### 【物流に関する意見：高速交通網との関連について】

- ・ 東九州自動車道の開通が間近に迫り、いまは九州中央自動車道の整備が喫緊の課題である。熊本方面の貨物について、いちばん首都圏に近い、あるいは海外に直行便として近い、そういう優位性を活かしていきたい。
- ・ 20年先は高速道路ができていることを想定している。道路ができると港湾は得意分野に特化していくことになるので、細島港はどの分野を得意分野としていくかを探すべきである。
- ・ 九州中央自動車道の整備については、宮崎県としても重要視している。
- ・ 高速道路の整備が今まで遅れていた地域であり、その整備が抜本的にこの地域の将来像なり物流の姿を変える可能性を持っていると思うので、もう少し長期的な目で、そういったものをどう捉えるかということ、しっかりと考える必要がある。
- ・ 「みなとシンポジウム」などで、A社の貨物は貨物全体の1/4程度しかないということも聞いているので、県外から貨物を集める必要があり、九州中央自動車道の役割は重要ではないか。

### 【物流に関する意見：ソフト面の対応について】

- ・ 日本の農林産品は優れているが、ロットが小さい。それらをまとめて輸出するため、輸出に関わる色々な業務をこなして、全体をコーディネートする人が必要である。
- ・ 細島港の整備も必要だが、利用面での仕組みも考えていかなければならない。インセンティブなども含めて考えないといけないのではないかと。背後の貨物は県外他港を利用している実態があり、宮崎県総ぐるみで、ソフト的な面も含めて取り組んでいかなければならないと思う。
- ・ 博多港では航路について中国直行便があり色々セレクトできる状況にある。今から後発としてそれに対抗していくには、やはり強力な政策面での支援が必要ではないか。
- ・ 他の港と明確に差別化できるのかどうか、志布志や博多・北九州と競争できるのか、港のコストの運営費が上がって、経済的な効果がないというようなことにならないよう考えてほしい。
- ・ 宮崎県全体の総合的な交通・物流ネットワーク戦略を策定中であるので、その内容も上位関連計画として整合性を取りながら計画を考えて欲しい。

### 【物流に関する意見：港湾経営について】

- ・ 細島港が対応すべき課題として、物流の項目中に「民の視点の導入による港湾運営の効率化推進」とあるが、何か具体的なバックデータは整理されているのか。
- ・ 全国的な話として、民の視点としては、大阪湾・東京湾などの貨物の多いところでは、港湾の運営が効率化できるのではないかということで、既に取り組みが始まっている。地元としっかりと話をし、企業や荷主などと港湾管理者がきちんと話し合ってもらいたい。
- ・ 機材導入、運営、港湾使用料、組織の機能まで含め、港湾経営の見直しを行うことで競争力の向上を考えている。

### 【物流に関する意見：物流関連施設の配置について】

- ・ 施設の老朽化が全国的にも問題で、万一壊れて人命を損なうといけないので、施設によっては、利用転換を図るなども必要かと思う。利用転換等についても地元ときちんと話して整理して欲しい。
- ・ 建設後40年、50年という施設が細島港内にあるわけで、背後の高速交通網が出来上がる頃には70年、80年になってくる。そういうことを考えると、現在の岸壁の利用配置でいいのかどうか。ある施設はどこか別のところに持っていくべきではないのかとか、そういう検討も多分出てくると思う。

### 【産業面に関する意見】

- ・ 細島港の整備が進むことで、グローバルな企業の進出が期待できるのではないか。
- ・ バイオマスや太陽光発電、あるいは車体用のリチウムイオン電池関係が燃料として脚光を浴びるだろうというような中で、関係する企業の発展を通じてクリーンなエネルギーの集積地であることを、この細島港から発信していきたいと思っている。
- ・ 産業集積のために、防災も含めて、延岡と細島港の間に産業道路がない、A社をはじめ、その他周辺企業にとって延岡と細島港を結ぶ産業道路は以前から課題となっているので、防災道路の観点も含めて港湾計画の中に取り込めないか。

### 【防災・安全に関する意見】

- ・ 地震・津波の問題では市内で2,000haの浸水が予想されている。津波による流木等の対策や、合同庁舎の建設、液状化対策をどうするのか、それらを含めて考えていきたい。陸前高田市に立地条件が似ている。避難タワーの建設、そのための財政上の手当、支援を頂くことも重要である。
- ・ 「地震津波対策」については、絶対浸水させてはならないエリア、浸水しても貨物が流出しなければいいエリアなど、安全面からみた港のゾーニングも考えておいた方がいいと思う。
- ・ 細島港は地盤高が低く、すべて守る機能は無いため、いろいろな段階で低減（多重防御）を行うことが高い安心感につながると思う。
- ・ 沖防波堤は港内のうねり対策で整備してきたものであるが、津波に対してどの程度の耐力があるかどうかは検討を行っているところである。波高10数mを想定して設計しているため、出てくる津波高さによってはもたないこともあるかと思う。
- ・ 耐震岸壁が1箇所しかないというのが気になっている。発災時に支援物資を大量輸送できるのは海上輸送であるため、できれば工業港地区等にもう1ヶ所耐震岸壁を整備した方が被災した人への支援が円滑にできるようになるのではないか。
- ・ クルーズ客船の大型化により何千人という旅客者が来訪するが、大型化により船が風を受けやすくなる。岸壁はそれ（風力）に耐えられるのか。細島港が危ないという話になるとポートセールス上もまずい。船舶の大型化は良いが、航路幅を超える長さの船は入れない。岸壁の強度や航路幅などに気をつけて欲しい。

### 【交流・レクリエーションに関する意見】

- ・ 港湾といえば利便性に傾くのだが、人とのふれあい、ロマンチックな感じも大事ではないかと思う。
- ・ ロマンチックの関連で、商業港の利用に関する検討の成果は反映できるのか。
- ・ 大型旅客船の受け入れで観光協会は大変勉強になった。乗船客が何を日本に望んでいるのかについて観光協会でも取り組んでいるが、まずは観光会社主導で決定される観光ルートに宮崎県を乗せることが課題と考えている。